

平成29年度 学校評価（自己評価）の分析

保護者、教職員、生徒の評価表から

教職員は、学校全体を捉えて評価しており、保護者は、自分の子を通しての評価が中心となり、生徒は自分自身を振り返りながらの評価が中心となることから、A～Dのパーセンテージ分布に多少ずれが生じている評価項目があるが、学校教育の成果として現れている内容を○で、今後、課題が必要な内容を●で表記した。

総括

○ 4段階評価（A→4 B→3 C→2 D→1）における中央値は2.5（最高値4.0～最低値1.0）のところ、評価平均値が3.5を上回る高い結果となった項目は、保護者18/28（+6）、教職員22/28（+9）、生徒14/22（+2）であった。やや高い結果と見なす3.0を上回る項目数では、保護者27/28（±0）、教職員27/28（±0）、生徒22/22（±0）であった。ほとんどの項目でおおむね高評価であったと捉えられる。そして、昨年度よりも保護者と教職員が高い評価をしている割合が多くなった。

※（ ）の中の数値は昨年度からの増減

○ 昨年度からの比較で、1つの質問項目毎の評価が平均で保護者は+0.07ポイント、教職員は+0.18ポイント、生徒が+0.06ポイント向上した。

● しかし、保護者や教職員の評価の中で、学習の場の提供や学習習慣の育成など学習指導について昨年度より評価が低くなっている項目もある。今後、残され時間の中で、改善できる内容について検討し、修正を加えて、子ども達のよりよい育ちが図れるよう教育活動を進めていきたいと考える。

主体的に学ぶ生徒	学習指導の充実	No 1, No 2, No 3,
	キャリア教育の推進	No 4, No 5

○ No 1の生徒の評価が高評価を得ている。また、教職員の評価ポイントが昨年度より0.5ポイントも向上している。また、No 2の保護者の評価が昨年度より0.3ポイント向上している。これは、生徒はステーション学習や普段の授業により、課題を解決する力が向上している証であると思われる。

○ No 4、No 5の項目で高い評価が得られている。これは、正しい職業観・勤労観を学び、自分の将来へと向き合うために全校生で拝聴した職業講話や高校説明会、2年生の職場体験学習、1年生のJICA訪問などを計画的に実施した結果であると思われる。

● No 2とNo 3の教職員の評価やNo 3の保護者の評価が低い結果になっている。よっ

て、教職員は、生徒が自律した学習習慣を身につけ、課題を解決していく能力を向上させ、主体的に学ぶ生徒を育成するために、授業の質的改善や個別支援体制を工夫しなければならない。保護者の方々は、学校の個別的な生徒への対応や子どもが積極的に取り組む姿勢が育まれるように更に期待していると思われるので、今後は、生徒にとって質問しやすい教育環境を整え、毎週水曜日の放課後に行われるステーション学習や補充学習など、個による学習支援を充実させていく必要がある。また、来年度示される家庭と学校が連携した家庭学習スタンダードを基に家庭学習の充実を図っていく必要がある。

共に高め合う生徒	心の教育の充実	No 6
	社会性の伸長	No 7, No 8, No 9

○ No 7, No 8, No 9の保護者、教職員、生徒の評価が高いことから、学校では、教育活動全般において、奉仕の精神や責任感など心の教育や社会性を育てる教育がある程度なされていると評価できる。小中連携での奉仕活動やダンスの講習会などによる小規模校のメリットを生かし、学校、学年の枠を越え、縦割りの班で諸活動に取り組んできたことが、上級生のリーダー性を育ててきており高い評価として表れたと考えられる。

● No 6の「自分や他人の良さに気づく」「思いやり」「感謝」等の道徳性を養う項目の評価が低くなっているのは、少ない人数の中で人間関係に慣れてしまい、他人の良いところを褒められない生徒が多いことや、普段の当たり前に行っている思いやりの行動が当然と思っていることが理由と考えられる。今後は、教師が様々な場面で思いやりのある行動に対して適宜称賛し、優しさや感謝の心を醸成できるよう働きかけていきたいと思う。

健康で明朗な生徒	健康・安全・防災教育の推進	No 10, No 11, No 12
	体力・運動能力等の向上	No 13, No 14, No 15

○ No 10～No 12の「健康・安全・防災教育の推進」の項目で昨年度以上に高い評価が得られたのは、2回実施した避難訓練や交通教室、各学年による性に関する講話などの他に、環境創造センターに出向いての放射線学習を教育課程に位置づけ実施したからと考えられる。

○ No 13～No 15の「体力・運動能力等の向上」の全ての項目で3.7以上の高い評価を得られた。今年度は、特設陸上部、特設駅伝部、特設合唱部ともに全校生での取り組みとなり、生徒の部活動に対する意識が向上したのが高い評価を得た要因である。また、全職員で常設部や特設部ともに、生徒の技術力の向上や体力向上に取り組んできたことが、教職員の評価が昨年度より高評価を得た要因である。

● No 13やNo 14の「体力・運動能力等の向上」では、保護者や教職員が年間を通じての体力の維持・増進について度高い評価をしているが、生徒は「あまり当てはまらない

い」という評価をしている生徒が少数いる。今後は、生徒の個別の運動能力に合わせたトレーニングのメニューを意図的に取り入れ、意欲的に活動できるよう支援していく必要がある。

学校教育の総括的な項目	No 1 6 ~No 2 8
-------------	----------------

○ No 1 7 の「積極的に学校行事に参加」では、生徒の学習の成果を発表する場である校内文化祭「紅葉祭」が、少数ながらも、一人一人が何役もこなし、素晴らしい発表ができたことや、保護者の皆様のご協力により生徒が達成感や成就感を味わうことができたことが高い評価の主たる要因かと思われる。

○ No 1 7、No 1 8、No 2 1、No 2 5、No 2 7、No 2 8 では、保護者と教職員とで高い評価となっているので、今後も、子どもの健全な育成のために、保護者と協力して真摯に学校運営に取り組んでいきたいと思う。

● No 2 2 「長期休業中や放課後に会議室を開放し、学習の場を提供している」では、積極的に会議室を開放し、必要に応じて教師が個別指導を行うなどの対応をしたことにより、生徒と教師は高い評価をしているが、その対応を保護者へ発信できていなかったことが保護者の評価を下げる要因であったと考えられる。

● No 1 6 の「楽しく学校に通っている」では、評価は昨年度よりやや向上したが、まだ、生徒全員が満足できる評価とは受け取れない。学校は、生徒を健全に成長させる大切な場であるので、いじめの有無、不安、悩み事があるか等の調査や個別相談を定期的実施し、さらに生徒との共有時間をできるだけ確保し、寄り添う指導そして支援に努めていきたい。

● No 2 0 の「学校の授業がわかる（できる）おもしろい（興味を持つ）」では、保護者および生徒の 1 5 %以上があまり当てはまらないと評価している。教師の最大の使命は、「生徒に分かる授業、できる授業」を提供することである。この結果を真摯に受け止め、教師の授業のコーディネート力の向上に向け研修に励んでいきたいと思う。また、生徒が学ぶ必要感を感じる課題の設定や身の回りの事象を生かした教材の工夫など、生徒が必要感に駆られ、生き生きと学習活動に取り組める授業の実践、授業の質的改善を追究していきたいと考えている。

保護者からの子供たちをどのような姿に育てていきたいかの意見

○ 心と体を強くして、高校生や社会人になったときにつらいことや苦しいことを乗り越えていける人に育ててほしい。（1年）

○ 人の痛みをわかる心豊かな人になってほしい。（1年）

○ 相手を思いやれる優しい心を育み、自分を信じて力強く前に進めることを願います。

（3年）